

平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

令和元年 9 月 10 日
枚方市立蹠跽小学校

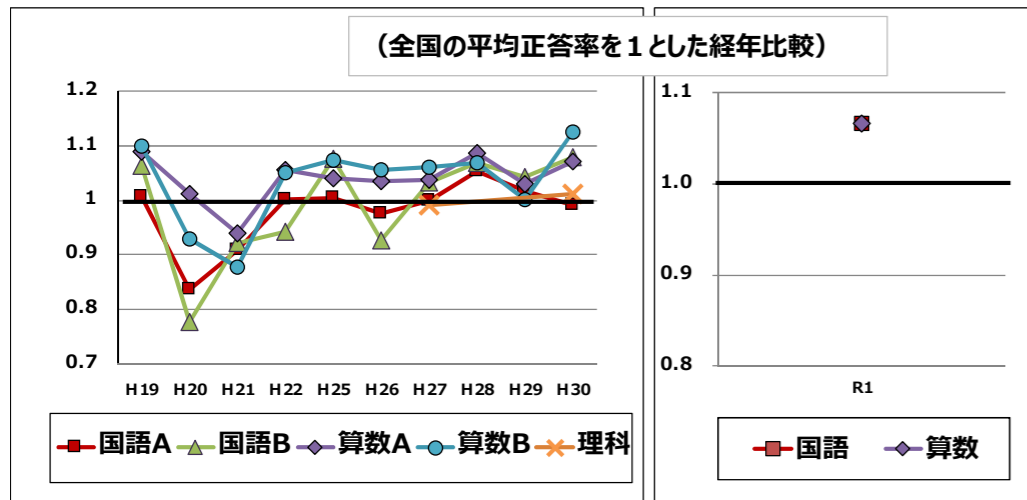
文部科学省が 6 年生を対象に今年 4 月に実施した、平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

学力調査の結果

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。
（※今年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）



※本調査は、平成 19 年度から実施されています。
※平成 23 年度は中止（東日本大震災）、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

< 学力調査結果の概要 >

◆国語、算数ともに平均正答率が、全国平均を上回っています。無解答率（全く答えていない問題の率）も全国より非常に低く、良好な結果となりました。本校児童の最後まであきらめずに問題に取り組む姿勢が伺えます。

○国語について

漢字を文の中で正しく使えるかを問う問題について、全国平均を大きく上回っていました。また、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題についても、記述式にもかかわらず 8 割以上の正答率となりました。

一方、接続語を使って、内容を分けて書く問題での正答率は 5 割を下回りました。また、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む問題では、無解答率は 0% であったものの、正答率が全国平均を若干下回り、課題が見られました。

○算数について

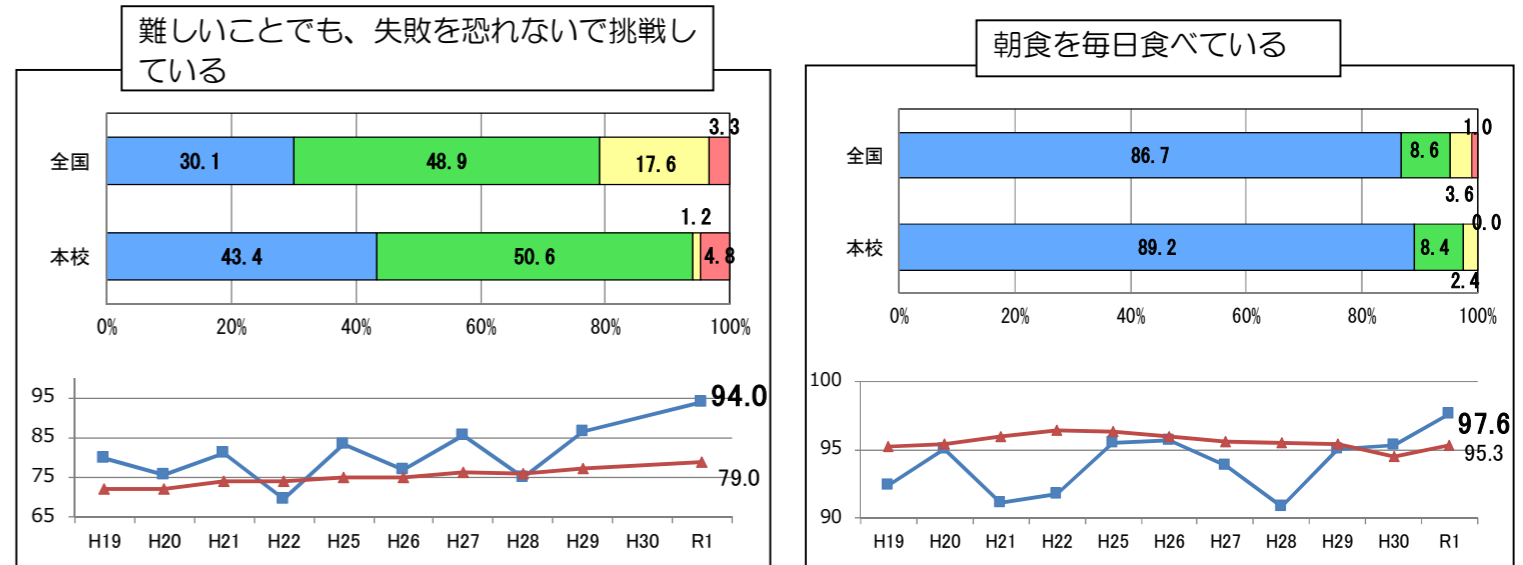
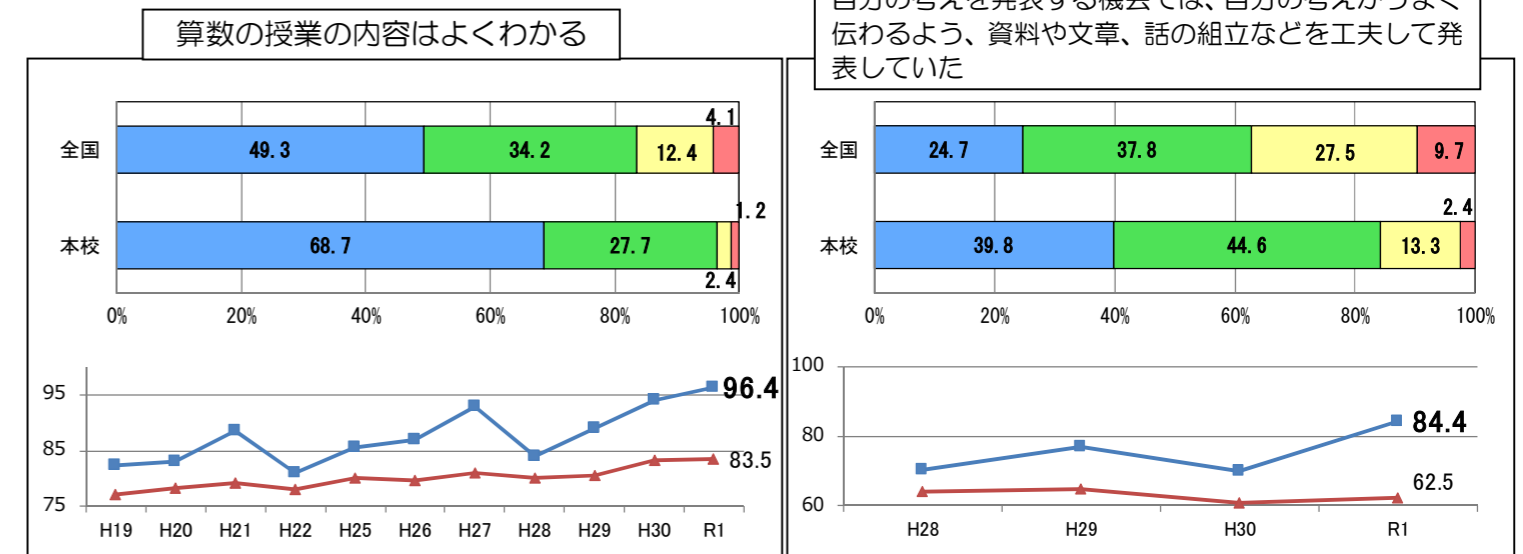
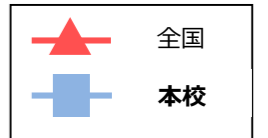
数と計算に関する問題については全体的に高い正答率となりました。また、示された計算の仕方を解釈して記述する問題についても全国平均を大きく上回りました。

一方、図形に関する問題や、示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題において、正答率が全国平均を若干下回り、課題が見られました。

質問紙調査の結果

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合もあります。



< 質問紙調査結果の概要 >

特に上記 4 つの項目において、全国平均やこれまでの本校の結果と比較して、よい傾向が見られました。

「算数の授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合が高かったことは、日々の基礎基本の徹底と、平成 29 年度 30 年度の 2 年間算数科を研究教科とし、考えたことを表現する力の育成をめざして取り組んできた成果と言えます。また、自分の考えがうまく伝わるよう工夫したり、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦するといった主体的な児童の姿は、保護者と学校が一体となって、児童の成長を温かく見守る体制がとられていることによるものと考えられます。朝食を毎日食べている児童が年々増加していることから各家庭における基本的な生活習慣の定着の高さが読み取れます。

学力調査における本校児童の平均正答率は、全国平均より高い割合を示しています。併せて、児童の質問紙調査においてもほぼすべての項目で肯定的な回答をしている児童の割合が全国平均を上回っています。これは、各ご家庭での落ち着いた生活環境が保障されていることに加え、学校組織として児童一人一人を認め育てていこうとする姿勢が成果につながったものと考えています。今後はさらなる授業改善に取り組みながら、保護者と学校が一体となり、児童の主体性を育て、豊かな心と確かな学びを育てていきます。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しています。

教科に関する調査結果より【詳細】

〈国語〉

【成果があった設問】

3 地域で活躍する人を紹介する（昼職人へのインタビュー）

趣旨：話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができる。

	正答率	無解答率
本校	80.7	1.2
全国	68.2	14.2

【考察】

地域で活躍する人物を紹介するために、インタビューをして情報を得る場面から、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができる」かどうかをみる問題において、全国より12.5ポイント高い正答率でした。

自分の考えについて、①元になる文章を根拠として、②場に合った言葉を使いながら、③決められた字数に合わせて書くという3つの条件を満たして解答することができています。また、空欄のままにしていた児童がほとんどいなかったことも、日頃から書くことを重視した授業づくりの成果と言えます。

三 岸さんは、インタビューの最後に、大谷さんの仕事への思いや考えに着目して、特に心に残ったことを伝えようとしています。「インタビューの様子」の「イ」に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

- 「インタビューの様子」の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書くこと。
- インタビューとしてふさわしい言葉づかいにすること。
- 書き出しの言葉に続けて、三十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※ 左の原稿用紙は下書き用紙なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※ 印から書きましょう。どちらの手で書くかを決めて、続けて書きましょう。

【課題があった設問】

1 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」）

趣旨：文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかをみる

	正答率	無解答率
本校	47.0	3.6
全国	47.8	11.3

【考察】

長い文章を読み手に伝わりやすくするために、接続語を使って2つの文章に分ける問題において、5割を下回る正答率でした。この問いに答えるためには接続詞「そこで」が「～なので」と同様の意味があることを理解している必要があります。日頃から様々な接続詞を意図的に使えるよう指導する必要があります。

（2）高橋さんは、読み手に伝わりやすくするために、「報告する文章」の文に分けて書き直すことにしました。文と文をつなぐ言葉には「そこで」を使います。書き直した一文目の終わりの五文字と、二文目の「そこで」に続く五文字を書きましょう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

公衆電話を必要ときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。

そこで、

〈算数〉

【成果があった設問】

3 計算の仕方の解釈と発展的な考察（計算の工夫）

趣旨：示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

	正答率	無解答率
本校	48.2	0.0
全国	31.1	10.8

【考察】

「示されたひき算についての計算の仕方と同じように、わり算の計算の仕方についても決められた言葉を使って記述できる」かどうかをみる問題において、正答率が5割を下回ったものの、全国平均より17ポイント以上高い結果でした。

無解答率について、全員の児童が何らかの解答を記述している点から、最後まであきらめずに挑戦する意欲が見られます。

(2) ひき算について書かれた【ゆいさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。

下の□の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

わり算では、

※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

【課題があった問題】

4 日常生活の事象を数理的に捉え判断すること（遊園地での待ち時間）

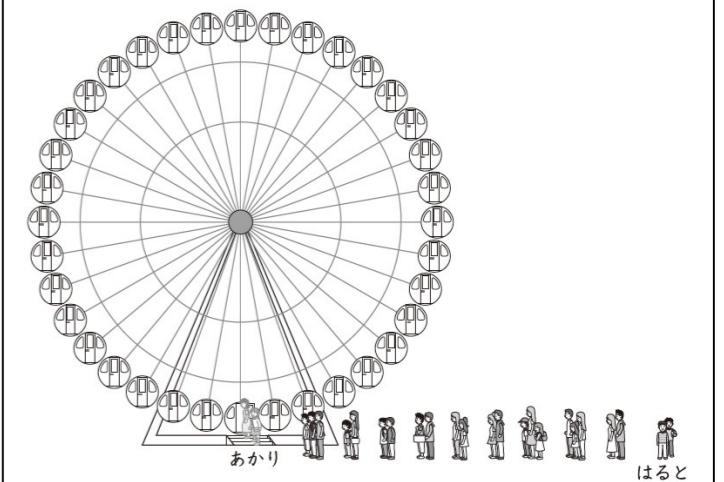
趣旨：示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができるかどうかをみる。

	正答率	無解答率
本校	65.1	1.2
全国	68.6	4.4

【考察】

問題文にある複数の数量から、目的にあった数量を選び取り立式することができるかどうかをみる問題において、約17%の児童が無関係の数量を使った解答をしていました。問題の意図を正確に読み取るとともに、問題中に示されている図絵等も参考にしながら、立式する習慣を低学年から身に付けていく必要があります。

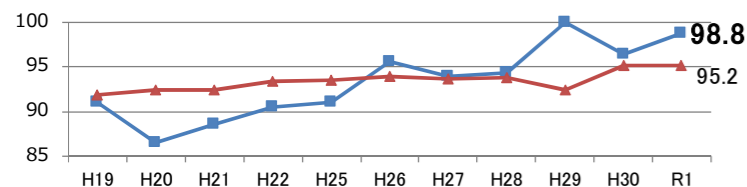
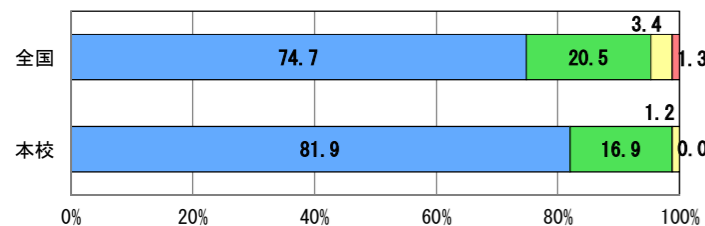
(2) 次に、はるとさんたちは、観覧車に乗るために列に並んでいます。観覧車のゴンドラは36台で、ゴンドラ1台に1組ずつ乗ります。ゴンドラは1台来るのに20秒かかります。今の先頭はあかりさんたちです。はるとさんは、あかりさんたちの10組後ろにいます。あかりさんたちがゴンドラに乗ってからはるとさんが何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを考えます。はるとさんがゴンドラに乗ることができるのは何秒後かを求める式を書きましょう。ただし、計算の答えを書く必要はありません。



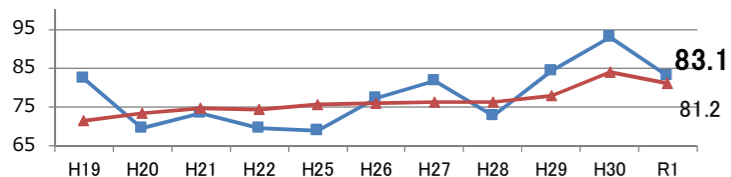
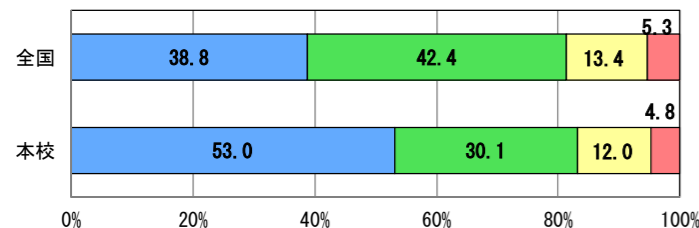
児童質問紙調査結果より【詳細】

自尊意識・意欲について

人の役に立つ人間になりたい

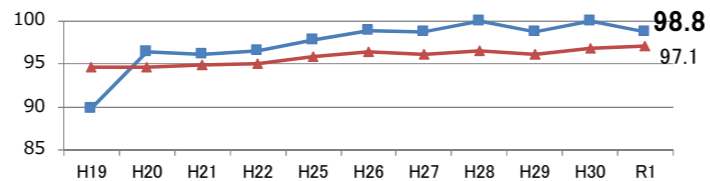
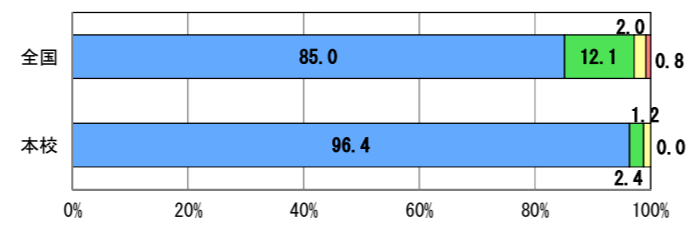


自分にはよいところがある

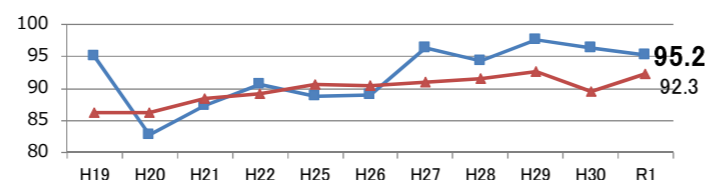
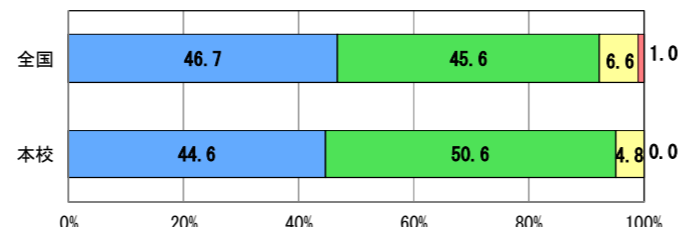


規範意識について

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

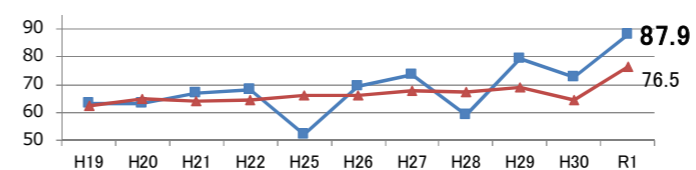
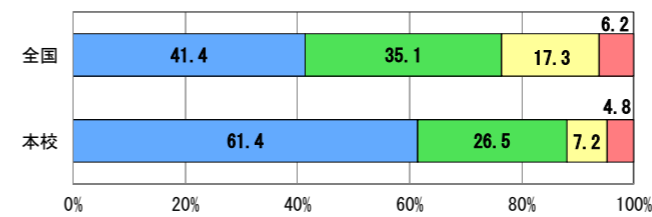


学校の決まりをまもっている

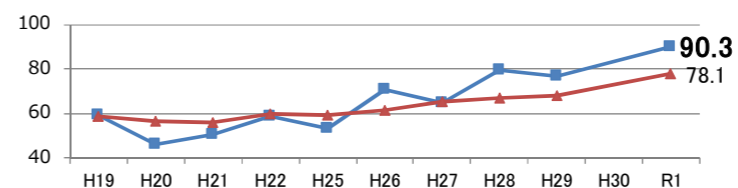
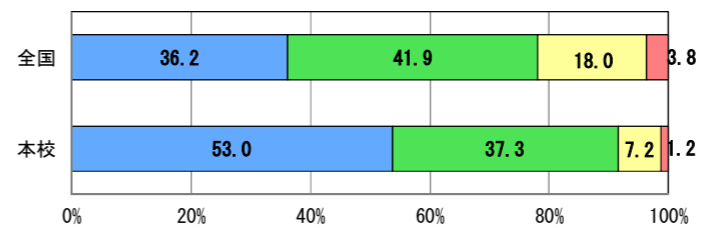


授業改善について

算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考える

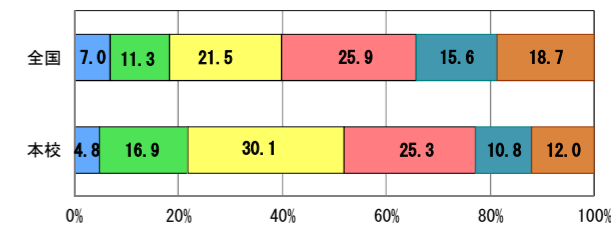


国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている。

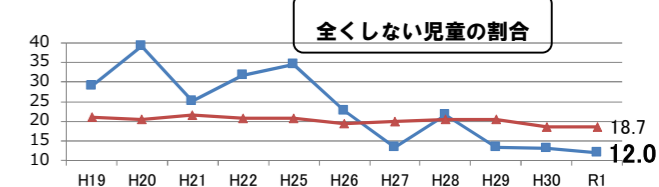


読書・生活習慣について

普段、一日あたりどれくらいの時間読書をする

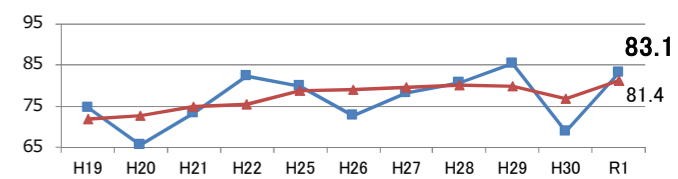
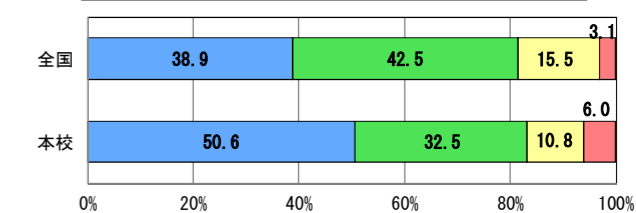


2時間以上
1時間以上、2時間より少ない
30分以上、1時間より少ない
10分以上、30分より少ない
10分より少ない
全くしない



全くしない児童の割合

毎日、同じくらいの時刻に寝ている



【児童質問紙調査結果についての考察】

本校は、児童質問紙調査におけるほとんどの項目において、肯定的な回答をしている児童の割合が全国平均を上回っています。特に上記のグラフから、「人の役に立つ人間になりたい」等の自己有用感や将来に対する意欲、「学校の決まりをまもっている」などの規範意識等が全国と比較して、非常に高いことがわかります。これは「家の人と学校での出来事について話をする」に対する肯定的回答が、全国（77.4%）に対して本校（86.8%）と上回っていることや「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」に対する肯定的回答が、全国（86.1%）に対して本校（92.8%）と非常に高いことと大きな関連があると考えられます。各ご家庭での基本的な生活習慣の確立はもとより、児童の話をしっかり聞き、しっかりほめるなどの温かな交流、そして、学校教育への協力体制が大きく影響していると言えます。併せて、学校においても、児童一人一人の良さを見出し、認め、声をかける、といった教職員の日常的な取り組みの成果とも言えます。

授業については、1ページ目で示したとおり算数科において、「よくわかる」と回答した児童が非常に多く、これまで学校として実践してきた「100マス計算」や「算数マスター」などの取り組みや、少人数習熟度別授業、教員の組織的な授業研究が良い結果をもたらした要因であると考えています。特に、自分の考えを工夫して発表したり、書いたりすると答える児童の割合が非常に高くなっていることについては、平成29年度から力を入れて取り組んできた算数、国語の授業改善による成果と言えます。

一方、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合が、昨年度より上昇したものの、引き続き、課題であることから「生活チェックシート」の活用など、児童自身が自ら規則正しい生活習慣を築けるような取り組みを推進していくことが必要であると考えています。また、読書活動については、「読書を『全くしない』児童ゼロ」をめざして、今後もボランティア等と協力しながら、本に親しむ時間を確保していく必要があります。

今後取り組むべきこと

【授業づくり】

- ・今年度は国語科を中心に全教員による授業研究を進めていきます。
- ・各学年に応じたきめ細かな取り組みで基礎基本と活用の力を定着させます。（100マス計算・算数マスター、パワーアップ問題、ことばの力のプリント等）
- ・さだ小チャレンジテストを実施し、その結果を日々の指導に活かします。
- ・児童が自力で問題を解決するための見通しがもてるよう、授業の中で身に付けてほしい力（ねらい）を「めあて」として明示します。
- ・「Hirakata 授業スタンダード」に基づき、一人で考えたり、話し合ったりする機会や振り返る時間を確保します。
- ・根拠を明確にししながら自分の考えを表現できるような活動を取り入れます。

【学習規律】

- ・「枚方スタンダード」に基づいた学習規律を徹底させます。

【家庭学習】

- ・保護者と「家庭学習の手引き」を共有するとともに、自学自習力の育成をめざし、3年生以上で「自主勉ノート」の取り組みを充実させます。